

平成 29 年度第 1 回（一社）日本生物物理学会理事会議事次第

日時：2017 年 6 月 24（土）14：00～17：00

場所：新大阪丸ビル 新館 4 階 405 号室

出席者：理事総数 17 名 出席理事 14 名（代表理事を含む）

代表理事（会長）	神取 秀樹	理事（副会長）	高田 彰二
理事（副会長）	野地 博行	理事	石島 秋彦
理事	内橋 貴之	理事	須藤 雄気
理事	豊島 陽子	理事	中井 孝尚
理事	西坂 崇之	理事	林 重彦
理事	原田 慶恵	理事	光武 亜代理
理事	宮田 真人	理事	渡邊 宙志

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 木寺 詔紀

オブザーバー：

邦文誌編集委員長	佐甲 靖志
欧文誌編集委員長	石渡 信一
ホームページ編集委員長	金城 玲
平成 29 年度年会実行委員長	山縣 ゆり子
平成 31 年度年会実行委員長	永井 健治
平成 27・28 年度理事	中村 春木
平成 27・28 年度理事	高橋 聡
平成 27・28 年度理事	佐藤 竜馬
平成 27・28 年度理事	寺沢 宏明
平成 27・28 年度理事	根岸 瑠美
平成 27・28 年度理事	古谷 祐詞
平成 27・28 年度監事	有坂 文雄
平成 27・28 年度監事	片岡 幹雄

陪席者：

会長室	神瀬 麻里子
学会事務局	向井 牧子

議長：代表理事（会長） 神取 秀樹  
議事録作成者：理事 渡邊 宙志

**報告事項：**

1. 定時社員総会の報告 (神取):資料なし
  2. 平成 29 年度年会準備状況 (山縣):資料報 2
  3. 平成 30 年度年会準備状況 (須藤):資料報 3
  4. 平成 31 年度年会準備状況 (永井):資料報 4
  5. 会誌編集委員会報告 (野地):資料報 5
  6. 男女共同参画・若手支援委員会報告 (高田):資料報 6
  7. 企画啓蒙活動報告 (根岸):資料報 7
  8. 日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会報告 (豊島・中村): 資料報 8
  9. 重点大型研究計画マスタープラン 2017 作業部会報告 (中村):資料報 9
  10. 会員除籍と会員数の報告 (光武・古谷):資料報 10
  11. IUPAB・ABA 関連報告 (野地):資料報 11
  12. 地区報告 資料報 12
- その他

**審議事項：**

1. 会長・副会長の選任 (神取)：資料なし
  2. 平成 32 年度年会開催地について (神取)：資料議 2
  3. 名誉会員の承認について (神取)：資料報 3
  4. 出版委員会関連議題 (野地)：資料報 4
  5. 男女共同参画若手支援関連議題 (高田)：資料報 5
  6. 日本学術会議マスタープラン重点大型研究計画担当理事の選任 (神取)：資料報 6
  7. 日本学術協力財団賛助会員加入について (神取)：資料報 7
- その他

## 報告事項

### 1. 定足数の確認 資料なし

理事会の審議に先立ち、議長 神取秀樹 氏より、定足数のご報告があった。

理事総数 17 名のうち出席者 14 名により過半数を超えた。

#### 定款第三十二条（決議）

理事会の決議は、決議について特別な利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

議長の選出、会長が議長を務める。

### 2. 平成 29 年度年会準備状況 資料報 2

平成 29 年度年会実行委員長 山縣氏より、熊本年会の準備状況について報告があった。

- 演題の登録状況について報告があった。
  - シンポジウム 276 件
  - 口頭発表 216 件
  - ポスター発表 632 件
  - 共催シンポジウム 10 件
  - ランチョンセミナー 10 社 9 枠 (3 枠が検討中)
  - 展示会 29 社 30 小間
  - プログラム集 10 社
- 会場・設備について報告があった。
  - 会場で使う建物は震災の被害が無かったので、工事の必要なしと報告を以前受けていたが、今年 5 月に入り工事を行うことになった。
  - 工事は 8 月末までの予定であるが遅延した場合、学会会期中に工事の足場が残る可能性がある。(工事自体はない)
- 宿泊設備について報告があった。
  - 現在 JTB を通じて 400 室確保している。
  - 年会サイトを通じてすでに閲覧可能
- プログラム編成について報告があった。
  - 年会のプログラムが決定した。
  - 1 日目の口頭発表(3 時間)の間に学生発表賞の審査を行う。
  - 物理学会の参加予定者(ポスター34 件、口頭 4 件)、動物学会参加予定者(2 件) その他理由で発表日を考慮する必要がある参加者(7 件)
  - 6/26(月)にプログラムの編成終了後、組版の開始。
- シンポジウムの学会における役割を検討・再考すべきという意見があった。
  - ひとつのシンポジウム(2 時間 30 分)に発表が 8~9 件程度あると、一般口頭発表のセッションと違いがなくなる。

- 金沢年会以降、シンポジウムの採用数が増えた。(つくば 34 件、金沢 38 件、北海道 24 件、京都 24 件)
- 演題の 1 週間延長を取りやめにすべきではないかという意見がでた。
  - 例年の延長があるので、1 回目の締め切りで申込が集まらない。
  - 実行委員にとって登録が少ないと赤字になる恐れがあり延長せざるを得ない。
  - 【結論】各実行委員会に任せるという結論に至った。
- 今年度の開催時期(9 月)だと申込時期が M2 の学生の就職活動と重なり、申込が難しい。できれば開催時期を遅らせてほしいという意見があった。
- 企業との意見交換会でのリクエストが反映されていないという意見があった。年会の運営にフィードバックするシステムがない。
  - 企業からの要望例
    - ◇ 教員を識別できるシステムが欲しい
    - ◇ ランチョンセミナーのサポート
    - ◇ メーリングリストを利用したランチョンセミナーの案内
    - ◇ 企業ブースにより足を運ぶ工夫をして欲しい
    - ◇ 一昨年のスタンプラリーを復活させて欲しい
    - ◇ コーヒーの提供を行ってほしい
  - 熊本年会でもできる限り対応しているが、年会実行委員会単位で対応するのは難しいので、長期的に理事会が対応していくべきという意見がでた。
  - 理事のメンバーも極力意見交換会に参加する。

### 3. 平成 30 年度年会準備状況 資料報 3

実行委員長沈氏に代わり、須藤氏より報告があった。

- 場所は津島キャンパス
- 各担当者および責任者を決定した。
  - 会場：山下氏、懇親会：須藤氏、プログラム：竹居氏、財務：成瀬氏、市民講演会：沈氏、シンポジウム：山下氏、庶務：須藤氏
  - 四国支部の方々も参画してもらった。
  - 実行委員は全体で 20～30 名確保できる見通しである。
- シンポジウムは、会場数に余裕はあるが若手奨励賞・学生発表賞との兼ね合いで、あまり増やせないのではないかという報告があった。
  - シンポジウムの採択基準をあらかじめ提示した方がよいという意見があった。
    - ◇ 【例】前年と連続した人がオーガナイザーになるのを避ける等
- 発表はシンポジウム・一般口頭発表がメイン
  - ポスター発表のための広い場所の確保や冷房・空調の問題等による
- ホームページは熊本年会が終了次第オープンする。

- ホテル・宿泊施設は 300 室程度確保してある。
- 大まかな予算案に関して石島氏より報告があった。アプリ制作については検討する。
  - アプリの廃止による支出削減
  - エーイーを通して発注しているが、アプリ制作費用の削減は難しい模様。
  - 代わりに PDF にリンクを付けたデータを配布
  - 浮いた予算はドリンクの配布などに充てる。
  - オンライン web 版は初期費用が非常に高いので検討が必要。

#### 4. 平成 31 年度年会準備状況 資料報 4

平成 31 年度年会実行委員長永井氏より、年会の準備状況について報告があった。

- 4 月 26 日に大阪にて準備委員会が立ち上がり、5 月 1 日、6 月 6 日に庶務・会場係によるブレインストーミングを行った。次回開催は 7 月 11 日予定。

実行委員長：永井健治（阪大産研）

実行委員

庶務・財務：石島秋彦（阪大生命）、上田昌宏(阪大生命)、南野徹(阪大生命)

会場：藤田克昌(阪大工)、松浦友亮（阪大工学）

広報：神田元紀(理研 QBiC)、渡邊朋信（理研 QBiC）

市民講座：菊池和也(阪大工)、細川千絵(産総研)、中瀬生彦(府大 21 世紀)

高校担当：原田慶恵(阪大工)、藤井律子(市大理)

ランチョン・広告：内山進(阪大工)、渡邊朋信（理研 QBiC）、永井健治（阪大産研）

懇親会：今田勝己(阪大理)、樺山一哉(阪大理)

プログラム：城口克之(理研 QBiC)、原田慶恵(阪大蛋白研)

特別企画：宮田真人(市大理)、渡邊朋信(理研 QBiC)、神田元紀(理研 QBiC)

- 開催場所について
  - 沖縄・大阪・島根・新潟などの候補地などから選出を検討
- 開催日は 10 月後半となる予定
  - 物理学会・応用物理学会とのオーバラップは無い見通し
  - 2019 年問題があり、会場・宿泊施設の確保が難しい。
    - 【意見】物理学会の日程が変更になる可能性も考慮にいれておいた方がよい。
- 例年からの変更・改善案（ブレインストーミングによる）
  - セッションの合間を用いたスクリーンでの広告
  - 市民講座を廃止
  - 市民講座の代わりに super science high-school (SSH)での出前講義
  - 年会費の増額
    - ◇ 以前反対意見が出たが一般枠のみの増額で対応。
    - ◇ 海外学会と比較すると参加費が非常に低額

- アプリの廃止
- 企業企画の活用・促進
  - ✧ 企業は訪問者の情報を欲しがっているので、情報を与えることができる仕組みを構築する。

【例】ランチョンセミナーの事前申し込み制度の設立。所属情報等を記入した上でランチョン券を配布（弁当だけ食べて出て行く人がいる等の対策）

- ミニランチョンに近いワークショップを開催して欲しいという意見が企業からあった。
- 小さめの予稿集の採用を検討し予算の削減を図る。生化学会の予稿集が参考になる。

これら変更・改善点案は今後の理事会等で審議に諮る。可能なものは岡山年会からの実施も検討する。

中村氏より海外の学会共催に関して報告があった。

昨年度は中国、韓国、オーストラリアと合同シンポジウムを開催した。今年は日本生物物理学会のメンバーが各国の学会に参加。（交互に人員を派遣し合う）

今年度はインドと台湾を招待し、来年度の当国の学会参加をリクエストされた。

中村氏、上海(中国)の学会のセッションにチェアとして参加。

今後、これら友好的な関係を継続して欲しいとの要望があった。

## 5. 出版委員会報告 資料報 5

野地 氏より出版委員会について報告があった。

- 生物物理会誌について
  - 編集委員と同じ研究室に所属する人が執筆する場合に関する内規を作成中であり、次回出版委員会で審議にかけるという報告があった。
- BPPB について
  - エディターズチョイスアワードの選考プロセスについて、対象論文の執筆者にあらかじめ打診をして、賞を受けるか確認を取った方がよいという意見がでている。
- ホームページ委員会報告

現在の生物物理学会および BPPB のホームページが現在のトレンドにあっていないという意見があるという報告があった。

【例】タブレット端末に対応していない

- 今後、費用を見ながらの調査・審議の継続をしていく。

## 6. 男女共同参画・若手支援委員会・男女共同参画学協会連絡会報告 資料報 6

高田 氏より熊本年会の男女共同参画・若手支援シンポジウムについて報告があった。

- 年会 2 日目のランチョンセミナーにおいて、男女若手企画主宰のパネルディスカッションを開催する。

【司会】根岸瑠美、【問題提起】高橋聡

【パネラー】豊島陽子、原田慶恵、林久美子、柳澤実穂、本間道夫、由良敬、藤原慶、豊田正嗣

【テーマ】男女共同参画のミクロとマクロ

◇ ミクロ：個人・家庭ベースで女性研究者が活躍しやすくなるか

◇ マクロ：大学や制度・政策としてどうあるべきか

統計資料等を参照しながら、議論を喚起してゆく。

高田 氏より学生発表賞について報告があった。

- 昨年の学生発表賞はポスター審査だったが今年は1日目の口頭発表の中から選出する。
  - 応募数は 76 件
  - 1 日目終了時までに受賞者を選出し、2 日目の懇親会に発表する予定である。
  - グーグルアンケート等を使って作業を軽減するように試みる。

## 7. 啓蒙活動報告 資料報 7

根岸 氏より平成 27・28 年度の啓蒙活動について報告があった。

【小・中・高校への講師の派遣事業】

- 現在 37 名の教員に講師登録してもらった。
- 講師登録のマニュアルを作成した。
- 学校からの依頼・問い合わせはまだない。
- 事業の浸透のためにホームページでの周知に加え紙媒体・チラシ(4 ページ)を作成した。
  - 第 1 版 2000 部を予定している。
  - 送付先は新旧理事に 10 部、全国の SSH(過去の指定校)を含む約 200 校、過去年会の市民講演会のポスター配布した(関東の)学校 (計 355 校)
- 一般からの質問受付に対してのマニュアルの整備を行っているという報告があった。

## 8. 日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会報告 資料報 8

豊島 氏、永井 氏より 4 月 27 日に開催された日本学術会議生物物理学・IUPAB 合同分科会報告について報告があった。

- 8 月 29 日に開催される公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージング研究の展望」のフライヤーの原案について永井 氏より報告があった。
  - 異分野のイメージングについて学ぶことで、バイオイメージングへの新しい発想を得ることを目的としたシンポジウムである。幅広い分野のイメージングについての講演とパネルディスカッションから構成される。
  - 講演のための申請書等を現在作成中

## 9. 重点大型研究計画マスタープラン 2017 作業部会報告 資料報 9

次世代統合バイオイメージング研究所の設立 について中村氏より報告があった。

- 現在、重点大型研究計画マスタープラン 2017 が学術会議から採択されている。
  - 作業部会を設立し、6月2日に大阪大学産業科学研究所にて会議を行った。(7名出席)
  - 豊島 陽子 氏を本件担当の理事候補として推薦し、豊島 氏からの内諾を得た。
    - ◇ 【追記】本理事会において正式に担当理事として選出された。
  - 主導機関が生物物理学会としていることについて議論が交わされた。
  - 6月14日に文部科学省においてヒアリングを受け設立計画を紹介した。
    - ◇ 設立された場合は、全国共同利用型になり生物物理学会も中心的な関わりを持つ。

## 10. 会員除籍と会員数の報告 資料報 10

古谷 氏より会費滞納の会員への督促結果および除籍処理について報告があった。

- 2017年4月30日の入金状況により、除籍処理を行った。
  - 正会員が64件、学生会員が117件除籍された。
- 2107年3月の会費納入案内により
  - 正会員3名が納入した
  - 正会員2名が3年分納入した
  - 海外正会員1名が2年分した。
  - 正会員4名退会した
- 現在の会員数は、正会員1990名、学生会員810名となった。
  - 会員総数の推移は横ばいに見えるが、正会員は減少、学生会員が増加傾向にある。

## 11. IUPAB・ABA 関連報告 資料報 11

野地 氏より IUPAB・ABA 関連について報告があった。

- 6月14日の ICI\_WG による第3回会議に参加した。出席者は永山元 IUPAB 会長、神取会長、野地 氏、永井 氏、下飼手 氏
  - 日本(京都)に加え、カナダ(オタワ)、デンマーク(コペンハーゲン)、ドイツ(ミュンスター)、南アフリカ(ダーバン)が IUPAB の招致立候補を表明

## 12. 地区報告 資料報 12

- 北海道、東北、中部支部から会誌の報告として資料の提出があった。



## 審議事項：

### 1. 会長・副会長の選任 資料なし

- 司会 中村春木 氏より会長・副会長の選任に関する議題が提出された。
- 理事により神取秀樹 氏が会長候補として互選された。
- 理事の賛成多数により神取氏が会長として選任された。
- 会長に選任された神取氏が野地氏、高田氏の 2 名を副会長として推薦し、理事の賛成多数で選任された。

### 2. 平成 32 年度年会開催候補地について 資料議 2

神取 氏より平成 32 年度年会開催地候補についての議題が提出された

- 2019 年度年会は大阪、群馬、奈良が候補として上がっていた。
  - 群馬は会場の確保、奈良は人員・会場の確保が難しいということで、大阪が担当することに決定した。
- 群馬のコンベンションセンターが H32 年に設立予定だが、確実にできるか分からない。
- 四国は岡山年会(2018)に担当として参加するので、すぐに四国が担当するのは負担が大きいという意見がでた。
- 10 年周期で東北で開催しているという意見がでた。
- 群馬、東北を有力候補地として、今後の理事会の審議にかけることに決定した。

### 3. 名誉会員の承認について 資料議 3

神取 氏より名誉会員についての議題が提出された。

- 名誉会員推薦規程 1-1 に基づき中村春木 氏への名誉会員授与が神取 氏により提起され、理事の全会一致により中村氏が名誉会員として承認された。

### 4. 出版委員会関連議題 資料議 4

野地 氏より出版委員会関連議題が提出された

- 先日、由良 氏がトムソンロイター社に出向き、BPPB に関して以下の説明を受けた。
  - トムソンロイター社はインパクトファクター(IF)を取得した雑誌をコアジャーナル、IF 取得前の雑誌群を(エマージングジャーナル)として定義している。  
エマージングジャーナルとして登録されるためには、トムソンロイター社が付与する雑誌のパフォーマンスを示す指標 emerging sources citation index(ESCI) を取得する必要がある。  
【補足】トムソンロイター社の情報部門がクラリベートアナリティクス社として独立した。ESCI はクラリベートアナリティクス社による審査となる。既に 5100 の雑誌が ESCI を取得。
    - IF を取得するには、必ずしも ESCI を取得する必要はないが、登録しておくとも IF

審査・取得がスムーズになる。

➤ ESCI 取得の要件は5項目ある。

1. Peer Review 誌であること
2. 倫理規定に則っていること
3. XML と PDF のファイルがあること
4. 英語による書誌情報があること
5. コミュニティからの推薦/要望があること

◇ BPPB は最初の4項目をクリアしている。最後の項目は、クラリベート社がアンケート調査を行って、対象雑誌の名前が挙ってくるかを調査し判断する。

➤ ESCI を取得すると Web of Science に登録されるので、国際的知名度が向上する。

➤ ESCI 取得に経費は発生しない。

【議決】本理事会により ESCI 取得への活動が承認された。

● 編集委員会の体制の刷新について

これまで石渡氏はIF取得までということで編集委員長を務めてきたが、ESCIの取得を区切りとして、編集委員会の体制を刷新するという提案が出た。

➤ 残った編集委員で今後の詳細の体制について協議を行い今後の理事会等で報告する。

5. 男女共同参画若手支援関連議題

資料議5

高田氏より以下の議案が提出された

● 学生発表賞の規程に関して

【変更点】

◇ 項目2の「次世代の生物物理学会を担う人材として」という文言を追加

◇ 学生発表賞と若手発表賞・若手招待講演賞の両方に応募することができるが、若手発表賞・若手招待講演賞に選ばれた場合は、学生発表賞への応募は取り下げられる。

◇ 理事会が選考委員会を選任するという文言を追加

◇ 複数回の受賞が可能ということを明記する

➤ 新たな変更点が生じたので修正原案を再度作成し、後日理事会によるメール審議に諮る

➤ 同じ(多少の修正が加わった)発表を連続年で発表することに対して規程がないという意見があがった。

● 若手奨励賞選考委員会の選出に関する記述がないので、同様に修正を加えて後日メール審議に諮る。

➤ 二次選考委員の選出に関する説明もないので、更に修正を加える。

● 今年度のキャリア支援シンポジウム企画に関して

アカリク社に依頼する。同社が開催するランチョンセミナーの費用8万円をサポートする

ことが承認された。

● テレビ会議システムの恒常的導入について

現在、大阪大学のテレビ会議システムを借りて会議を行い、支出を削減しているが、今後テレビ会議を続ける場合はシステムを導入を検討する必要がある。

**6. 日本学術会議マスタープラン重点大型研究計画担当理事の選任 資料議 6**

神取 氏より日本学術会議マスタープラン重点大型研究計画担当理事の選任に関する議題が提出された。生物物理学会が主導する次世代のバイオイメージング研究所の設立計画に関して、神取 氏により今期の理事でもある豊島陽子 氏が担当理事に推薦され、理事の賛成多数により選出された。

**7. 日本学術協力財団賛助会員加入について 資料議 7**

神取 氏より公益財団法人日本学術協力財団より依頼のあった賛助会員加入について議題が提出された。

【議決】今回は加入に関して見送る。

その他  
特になし。

**連絡事項：**

次回理事会日程について

平成 29 年度第 2 回理事会

日時：2017 年 9 月 19 日 11:50～12:40

場所：熊本大学全学教育棟 A303 教室

第 3 回以降は、第 3 土曜を原則としてテレビ会議で行う。

第 3 回 2017 年 12 月 16 日（土）、第 4 回 2018 年 2 月 17 日（土）を予定。

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 17:00 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 29 年 7 月 28 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 29 年度第 1 回理事会

代表理事 神 取 秀 樹 (印)

監事 木 寺 詔 紀 (印)